

『劔岳頂上での観測体験記

～柴崎測量隊の足跡を追って～



株式会社 上智
神島 和也

<さあ 出発！>

一生に一度はやってみたい事。その一つが立山連峰劔岳の登山でした。しかし、なかなか機会がなく、今回 NHK のドキュメント企画に当社が協力するということで劔岳の測量登山に行くと聞き、こんなチャンスは二度とないと思い志願。登山は全くの素人ですが、なんとかなるだろうとの軽い気持ちでした。しかし、悪天候により予定されていた日がずれるなど当初から波乱含み。



室堂ターミナルにて…いざ出発！

登山初日、朝から降っていた雨も室堂ターミナルに着く頃にはなんとか止み、午前9時、いよいよ2泊3日の劔岳測量登山の開始。最初の難関雷鳥沢を登りつめ劔御前小屋に着いた時点で午後の1時。志願したことを若干後悔しつつそこから一般ルートではない劔沢雪渓を下り、初日の宿泊地真砂沢ロッジに到着。時はすでに午後の5時を過ぎており、あまりにも遠く、また他の登山者もいなくて、本当にこんな所に山小屋があるのかと途中で心配になるほどでした。そこでようやく NHK のスタッフの方々と合流し打ち合わせをしましたが、山小屋で食べる食事は本当にありがたく、感動すら覚えました。そして、その晩は8時過ぎに就寝し、4枚の布

団に5人川の字になって寝たのですが、自分はほとんど寝られませんでした。

<長次郎雪渓から劔岳頂上へ>



準備万端！目指すは長次郎谷攻略！

明けて2日目午前7時、いよいよ劔岳への登山開始です。長次郎雪渓という明治時代に柴崎測量隊が登った時と同じルートに挑みました。

アイゼンと呼ばれるスパイクのようなものを靴に装着し、黙々と雪渓を登っていきました。(社)日本測量協会 測量技術センターの山田さんを班長として、ガイドさん、自分たち上智の2



撮影スタッフもかなり疲労困憊

人、ディレクターの方、音声さん、カメラさんの計7人。

非常にゆっくりとしたペースで登っていくのですが、自分がついていくのが精一杯で、登っている最中心の中で「もう限界だ!」と「頑張れ!」の葛藤を終始繰り返していました。

そして、途中で撮影しながら行くのですが、登ったり降ったり…この時、カメラさんが一番大変だなと感じました。

雪渓を登り切るとあと一息。すでに会話もできないほど疲れ切っていましたが、なんとか残りの岩場を登り切り午後1時半、ようやく頂上に到着。



剣岳山頂にて

<剣岳頂上での観測>

普通の登山ならばここで目的達成ですが、私達はこれからが仕事です。早速、平成16年に新しく設置されたⅢ等三角点剣岳でのGPS測定の準備に取りかかり、黒部別山（Ⅲ倉ノ助）、剣御前（Ⅲ別山）の三角点チームと時間を合わせて2時間のスタティック観測を開始。ひとまず落ち着き、その間に頂上からの絶景を楽しもうかと思いきや、あいにくの曇り空…がっかりしながらも剣岳登頂の喜びを深くかみしめました。

観測の最中に雑談を交わしていた折り、協会の山田さんが持参された資料の中に当時の柴崎測量隊が観測したⅣ等三角点が写っている写真がありました。そこで、その場所を探したところ現在もその岩が剣岳頂上に残っていたので、GPS測定でそのⅣ等三角点の高さを求め当時の柴崎測量隊が導き出した標高と比べたらおもしろいんじゃないか?ということになり、急遽追加でGPS観測を行う事になりました。時間の余裕も無く、短縮スタティックで15分の観測となりました。結果は番組の中で説明されましたが、当時の技術水準の高さには感嘆します。

<観測を無事終えて>



重装備での鎖場下山は超難所です

午後4時15分観測無事終了。日暮れが迫り下山途中での事故の恐もあるので急いで片付け、帰りはより安全で一般的な別山尾根ルートで下山しました。下りなのであとは楽だろうと高を括っていたら、カニの横這いと呼ばれる鎖場、前剣、一服剣と難所の目白押し、2日目の宿泊地剣山荘に到着したのは午後6時頃。すでに日が落ち、辺りは真っ暗闇でした。

最終日の朝、いままで経験したことのない筋肉痛が全身を襲ってきましたが、なんとか我慢しながら一歩一歩進み無事に室堂ターミナルまでたどり着くことができました。そして高原バスとケーブルカーを乗り継いで立山駅に到着した時、たった2泊3日であったのに随分長い間まるで別世界にいて、そこから現実に引き戻されたような不思議な感覚に陥りました。

今回の測量登山で、高性能な機器や技術のない明治時代に剣岳を測量された柴崎測量官達の苦勞のほんの一端ではありますが体感することができ、私の心に大きな刺激を与えてくれました。

「何をしたかではなく、何のためにしたのか」という言葉通り、自分はこれからも正確な地図を作成するため黙々と測量を続けていこうと思います。